

まちづくりセンター

地域の輪が広がる
厚別南地区
ふれあい
もちつき会



昔取ったきねづか、子どもたちにもちつきの手本を示します。

核家族化や少子化により、隣近所の交流が希薄になったと言われる時代にあつて、厚別南地区では世代を超えた地域の交流が盛んです。中でも共栄小学校（板倉隆校長・児童数六百三十人）と地域の連携により実施される「ふれあいまちつき会」（「ふれあいまちつき会実行委員会 大杉剛委員長）は、回を重ねるごとに参加者が増え、六回目となった今回は、地域の方と保護者を合わせて百二十人余りの協力により、六年生を対象に盛大に開催されました。

現在ではほとんど見かけなくなったもちつきを子どもたちに体験させてあげたいとの思いから、「まずは町内で眠っている」ときね



地域内で顔の見える関係を作っていくのがまちづくりにとって大事なことです。今後、皆さんと共に地域の輪を広げていきたいと思っています。

厚別南まちづくりセンター 桑 浄所長
厚別南1丁目15-10 (891) 16666

を採ることから始めました」と副委員長の滝沢祇董さんは話します。会場となった体育館で、まずはもち米のふかし方を習い、ふかしたてを味わい、皆、その甘さに驚きます。続いて、大人のもちつきを見学し、もちつきは、つき手と返し手の呼吸が大事なのだと学びます。つきたてのもちで大福作りに挑戦した後は、いよいよもちつき体験へと進みます。

一年生は、大人と一緒に小さな臼ときねで、六年生は大きな臼ときねで力強くついていきます。周囲から「よいしょ！よいしょ！」と大きな掛け声がかかり、会場は餅から上がる湯気と一緒に盛り上がりました。

「学校と連携した催しで、近所同士が親しい関係を築き、子どもたちは地域への愛着や理解を深めてくれたら」と笑顔の滝沢さん。地域の輪を広げ、つながりを深めたもちつき会でした。

※厚別1ページにも写真を掲載しています。

区役所掲示板



対象

厚別区にお住まいの方。

あて先

はがき、ファクス、Eメールに住所・氏名・年齢・電話番号・右のクイズの答え・読者アンケート（必須）を記入し、厚別区役所総務企画課広聴係（厚別1階下欄）へご応募ください。1人1通までとします。Eメールはat.somu@city.sapporo.jpへ。

締め切り

1月26日（金）まで。当日の消印有効。
正解者の中から抽選で50人に共通ウイズユーカード（1,100円分）を差し上げます。
当選者の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。正解は2月号に掲載します。

< クイズ >

今年で二回目となる冬のイベント「新さっぽろ冬まつり」のメインシンボルはなんでしょう？

おやすみ

（ヒント：厚別2～3階参照）

< 読者アンケート >

1. 区民のページで取り上げて欲しい内容やコーナーをお書きください。

2. 区民のページ全体についてご意見・ご感想をお書きください。
